大正九年五月一日發行　大正九年四月二十六日印刷納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第十七巻　五月號

目次

第十七巻第五號

女子青年界目次

大正九年五月號

▲論説▲

女子青年界 第十七巻 五月號 大正九年五月一日發行

會説

靈性の發達

香蘭女學校 學監 長谷川喜多子

「全體此首により諸の節と維をもて相助け相聯なり神に育られて育なり」（コロサイ書二章十九節）此節の最後の一句は英語には "Increase with the increase of God" と譯され、邦語改正譯には「神の育にて生長するなり」となつて居ります。私共の靈性の成長發達は、此句に示されてある通り自動的に成し遂げ得らるゝものではなく如何しても神の育てに依らなければなりません。如何に知識に富み、聖書に通じ神學上の敎理に明な基督者でありましても、之だけでは未以て信仰の偉人と申す事は出來ません。聖書の知識とか神學上の理論とかいふものは、云はゞ建築の足場のやうなものであつて、之は必要缺くべからざるものではありますが、決して目的ではありません。靈性の建築の手段とし、助けとして必要なる之等のものを、私共は恰もそれが宗敎の眞髓信仰の究極目的であるかの樣に考へ、之に拘泥し、且捕はれ易いのです。其結果として成程頭腦に宗敎上の形骸と理論とを注入する事は出來るかもしれませんが、心の歡喜と眞の平和とは、到底獲得し得べくもないのであります。

斯る信仰は頭の信仰であつて、心の信仰ではありません。從つてそれが、日常の生活にも、人格の中にも、何等生ける力とし生命として働かないのです。靈性の眞の成長は宗敎の理論や、神學上の知識に依るのではなく、聖ポーロの申したやうに、それが神御自身の聖手に依つて養はれ、育てられる事に俟つのであります。

如斯き神自らの養育を靈性に受けんと願ふ者の（而して之は全ての信者の必ず受けねばならぬ事ですが）とるべき態度は、

第一服從であります。即ち「我が降りしは己の意の任を行はん爲に非ず、我を遣しゝ者の心の儘を行はん爲なり」と仰せられし基督の態度であつて、低き汚れた自己の意志を通すのでなく、至高至聖の神の聖旨に絕對の服從をなす事であります。

「夫れ順ふ事は犧牲にまさり聽く事は牡羊の脂にまさる」（サムエル前書十五ノ二二）

信仰生活必須の要件は、神の聖旨に聽き順ふことであります、時々刻々聖旨如何にと考へ、之に依つて日常の些事をも行ふ事により、私共の汚れた性情は潔められ、低き人格は高められます。

第二の要件は、ます〱神を知る事であります。私共が古の偉人傑士の傳記を如何に多く讀んでもそれに依つて彼等を全く知り盡す事は出來ません。何故なれば彼等と偕に居ないからです。神を知る事は如何にして達し得られませうか。それは私共が彼と偕に在る事に依るのであります。「汝等は神の殿にして神の靈汝等の中に在す事を知らざるか」と聖ポーロは哥林多前書三の十六に申て居ます。これは信者になると直ぐ樣、私共の心が神の殿になるといふのではなく、信仰によつて神と聯なる事により、私共の中に與へらるゝ神の生命が、私共の靈性を發達成長せしめ、終に全く神の住み給ふ所となるに至るといふ意でありませう。

神と偕に在る事により、ます〱神を知り、彼の生命をうけ、斯くして全く新しく聖きものが、私共

の靈性の中に働くやうになるのであります。

斯く「神の育によりて生長す」とは、自己の知識研究、修養によつて、人格の完成を試みんとするのではなく、造化なる神の聖旨に從ひ、彼の中に充ち滿つる生命によつて、神御自身の創造を私共の靈性に受ける事なのであります。

其結果として、斯る養育を受けるのでなければ、不可能な事としか思はれぬ「己れの如く汝の隣を愛すべし」との基督の教訓、「衆の人を敬ひ兄弟を愛し云々」とのペテロの誡等を、實行し得るに至ります。誡を守る力は己より出づるのでなく、神の生命によるのでありますから。

自己の中に神の生命を獲得し得たものは、衆の人を、其人々の所有して居る靈魂――神の生命を受け得る靈魂――の爲に愛し敬し得るに至ります。例へ多くの人は罪の爲に、之を求むる力を失ひ、高慢の爲に求むる必要をさとり得ないかもしれませんが。若し私共の靈眼が人の靈魂に向つて開けるならば自分を憎み苦しめる者に對してすらも、眞愛と敬とを失ふ事は出來ません。

隣人と神とを心をつくして愛せんとの基督者の理想は、私共の靈性が「神の育によつて生長する」事により初めて實現せらるゝのであります。

我淸き水を汝等にそゝぎて汝等を淸くならしめ、汝等のもろもろのけがれと、もろ〱の偶像を除きて汝等を淸むべし。我あたらしき心を汝等に賜ひ新しき靈魂を汝らのうちに賦け、汝らの內より石の心を除きて肉の心を與へ、吾靈を汝らの裏に置き、汝らをしてわが法度に歩ましめ、吾律を守りて之を行はしむべし。とエホバ言ひたまふ。

信仰生活の歩調

東京神學社教授　高倉徳太郎

エノク神と偕に歩みしが神かれを取りたまひければをらずなりき（創世記五ノ二四）

ノアの傳は之なりノアは義人にして其世の完全き者なりきノア神と偕に歩めり（同六ノ九）

右の二ケ所に記されて居るやうにユダヤの信仰篤き人々の生活は、神と偕に歩む生活であつた。「神と偕に歩む」といふ言葉は至つて簡單であるが、よく考へて見ると暗示に富んだ語である。社會組織も心情も單純であつた原始時代の信仰の人の歩みは、神と偕に顔と顔とを合せ、足並をそろへて歩む生活であつた。

一體神と偕に歩むとは如何なる事を意味して居るのであるか、それは即ち人生に現れて居る神の生命と調子を合せ、それに共鳴して生活して行く事である。神の生命はこの人生に眞理とし、美とし道德的意志として表現せられてをる。學者が眞理を探求するとは、神の生命の律を理性を以て受けとめ、之に共鳴して行く事に他ならぬ。また神と偕に歩むとは、人生に一貫せる道德法、即ち神の聖き意志に合せて生活する事になる。基督は「神の旨をなす之我糧なり」と云はれたが、このうちに神の正しき高き意志に合致して生きることの自由と歡喜とが現れてをる。彼はつねに神の生命の律に觸れ、それに吸ひ込まれて活動せられた。人生の根柢に流れて居る聖き意志に合せて生活する事が、吾等の信仰生活であり、神と共に働くといふ事が即ち神と共に歩む事となる。

「我父は今に至る迄働き給ふ、我も亦働くなり」といひ給ふた耶蘇は、神の働に歩調を合せて働かれたのである。實に堂々たる心持が其中にあらはれて居るのを見る。唯働くといふのなれば、鳥も獸もそれ〳〵皆働いて居る。然し神と共に働くといふ意識を持つて働く所に價値がある。

メキシコの土人の間には、踊るといふ事と、働くといふ事とは同語が用ひられて居るといふことである。多くの宗教には共に喜んで踊るといふ分子がある。此中に神と共に喜ぶ意味が含まれて居るのではあるまいか。人間の働の中には實際非常に愉快な、踊り出すやうな分子がなければならぬ。耶蘇の生活の一面にも神と共に踊るといふ歡喜の分子があつたと思ふ。

現代の吾々は如何であるか。働くといふ事はいやな事になつて居る。其理由の一つは吾々が過重な働を要求されて居るからでもあらう、又働の多くが自己の創意を働かせる餘地のない機械的のものになつて終つて居るからでもあらう。之は慥に現代の社會組織の缺陷ではあるが、それにしても吾々の勞働の中にもつと感謝の分子、即ち躍る分子が浮上つて來なければならぬ。神と偕に働き、神と偕に歩む事によつて、吾々の働の中にもつと堂々たる態度が出て來なければならぬ。家庭の些事にも、社會の働にも一切の自分の仕事の中に、神と偕に交りつゝ働くといふ歡喜があり度きものである。

宗教生活は唯神の前に額づける時のみ營まるゝものではない。エノク神と偕に歩めりといふ調子が、現在の吾々の日常生活にもつと快復されなければならぬ。吾々は神と偕に調子を合せ、共鳴して進む事によつて、又人との歩調も合せて行けるやうになる、之即ち神の國の實現である。

吾々基督者にとつて神と偕に歩むとは、基督の奏で給ふ調子に合せて歩む事である。「人間の心の深き所を掘つて見よ、其所に音樂がある。殊に偉大なる人の心底を掘つて見よ、其所に朗な音樂が奏でられ

て居る」といふ意味をカーライルであつたかは云つて居る。而して人の心底に奏でられた音樂の中、基督の心の中に奏でられたもの程美しきはない。

屢々亂れ易い足並を以て、現代の混屯の中にある吾々の靈耳に、かすかに而も力強く訴へて居る基督の心底の音樂に、吾等の足並をそろへて行く事が必要である。

さて彼等エルサレムに上る途にありイエス弟子に先ち行ければ彼等おどろき且おそれて從へり(可十ノ三二)

耶蘇の後に從つて行く弟子等は、彼の沈默に驚き且恐怖をさへ催して居た。現在の吾々も亦、エルサレムに向ひ給ふ耶蘇のお伴をして行くと假定する。耶蘇がずん／＼進んで行かれる後から、驚き怖れて、足並もしどろもどろに進みつゝある弟子等と同樣ではあるまいか。

弟子等の此有樣の原因は、耶蘇の歩み給ふた平面と、弟子等の歩んだ平面とが全く異つて居た所にあつた。十字架に向つて進みつゝある耶蘇の心持は弟子等にはわからなかつた。吾々の歩みが屢々亂調子になり勝ちなのも、やはり同じ所に其原因を有して居ると思ふ。

宇宙、人生の根柢に一貫して居る法則、即ち犧牲の法則は、基督の生涯に最も鮮かに現はされた。而してそれは、彼が十字架に上らるゝ時殊に鮮にせられたのである。然し、斯くまで鮮に奏でられた調子を、弟子達は聞き得ないで、足をばた／＼させて居たのである。

吾々の生活の步調は正しくエルサレム途上の耶蘇の步調に合すべきではあるまいか。之が人生の至高至聖の法則に吾々の足並をそろへる事であると思ふ。耶蘇の生活と彼の人格に現はされた犧牲の中にのみ、吾々の求むる眞の平安がある。耶蘇の歩みし調子に、吾々の歩みがぴつたり合つた時程、眞の平安の與へられる時はない。願はくば吾々の日常の歩みを、耶蘇の此足並に根本的に合致せしめ度ものである。

(說教筆記)

聖書研究

ピリピ書講解

佐波　亘

緒言

□この講解は三四年前に出版されたエ・ティ・ロバートソンの研究に據つたものです。十回程で終りたい心算です。

□ピリピ書は手紙です。手紙といふものは論文よりも人の心に觸れるもの、また親しみを有つて居るもので、人の心を引き着けます。それは彼の日蓮の遺文と稱へらるゝものが、日蓮を崇拜する人々にどれ位力となつて居るかを見てもわかりませう。

□この手紙の發信人は誰かといへば、それは言ふまでもなくパウロです。書中に彼の面目が躍如として表はれて居るので、何人にも然か思はれるのです。

□手紙ですから勿論論文のやうにその間に論理の一貫を期することは出來ません。然しそれが却つて論文よりも人を動かします。

□手紙は窓のやうなもので、此によつて人の心の奥座敷を覗くことが出來ます。それ故この手紙を讀めばパウロの心に宿り給へる基督を見ることが出來ます。

□多忙なパウロは、今日多忙な人々がするやうに、多くの場合に寫字生を使つて、彼が口述するところを筆記させたやうです（ロマ書十六ノ二十二）。然しこの手紙は彼自身筆を執つたやうです。彼の短い手紙であるピレモン書も自ら書いたのです（同書十九）。

□この手紙には不朽の文字が見ます。古往今來何人も企て及ばぬ大文字があります。

□さてこれは何處で書いたのか。或はエペソでとも言ひます。然し聖書に表はれて居る諸種の事情から

推量すれば、それはロマであると思はれます。

□然らば何時頃書いたものであらうか。この手紙の内容から考へると、彼がロマに着いてからだいぶ時が經つた後のとであると想像されます（ピリピ書二ノ二十五—三十）それで多分紀元五十九年の春から六十四年の初夏までの間に書かれたものでせう（六十四年はネロ帝がロマを燒いた年）コロサイ書、エペソ書、ピレモン書も彼が此間に發した手紙です。そしてこの手紙は、これらの手紙を發する前、あまり時を隔てずに發せられたものでせう。

□パウロは都會向きの人です。彼は所謂村落傳道者ではありません。それ故大帝國の首都ロマに行かばやとは彼が多年の宿志でありました。然し囚人の姿で來やうとは彼が夢にも思はぬ所でしたらう。彼のロマに於ける生活の狀態は使徒行傳に見えて居ます「己が借り受けたる家に留り、その許にきたる凡ての者を迎へて、更に臆せず、また妨げられずして神の國をのべ、主イエス・キリストの事を教へたり」とあります。彼は鎖に繫がれた身ではありま（二十八章三十以下）したけれども、また極めて寛大な待遇を受けて居たらしいのです。

□當時のロマの教會の狀態は、この手紙とロマ書とを讀み合せるとよく理會ますが、それは全く諸人種の寄合でありました。それから彼の暴君ネロと大哲セネカとは、彼と時代を同うして羅馬に居た人々であります。それ故彼はかゝる事情に圍まれながら、孤軍奮闘して居るロマの教會を大いに激勵しましたそして彼自らも亦外界の權勢などには少しも目を與れず、眞に世に勝つ力を握つて立つたのです。彼はこの世の權勢に對抗して、寧ろ自らが「キリスト・イエスの囚人」（エペソ書三ノ一）、「キリスト・イエスの僕」（ピリピ書一ノ一）、「福音のための使者」（エペソ書六ノ二十）たることを誇として居ました。

□抑もピリピといふのは、アレキサンダー大王の父マケドニヤのフキリップ二世の名から出たのであつて、市は多島海の北、ネアポリス港（今日のカヴアル）から九哩の地點にある山添の要害の地であります。當時フキリップ王の財源は實に此地の金礦であつたといふことです。聖書には「こゝはマケドニヤの中にてこ

の邊の第一の町にして植民地なり」(使徒行傳十六ノ十二)と記してあります。

□またピリピは商業上東西の關門であり要路でありました。不思議なことには神はパウロを此地へ導かれたのです。即ち「遂にムシヤを過ぎてトロアスに下れり。パウロ夜、幻影を見たるに、一人のマケドニヤ人あり、立ちて己を招き「マケドニヤに渡りて我らを助けよ」と言ふ。パウロこの幻影を見たれば、我らは神のマケドニヤ人に福音を宣傳へしむる爲に我らを召し給ふことゝ思ひ定めて、直ちにマケドニヤに赴かんと爲り」(使徒行傳十六ノ八―十)、これは聖書の記すところであります。

□パウロは少くも三四回ピリピへ行つたやうです。第一は使徒行傳十六ノ十一―四十に記してある場合(彼のルデヤの回心は此時です)で、こゝには當時の土地の狀況が目に見るやうに寫し出されてあります。それはとにかく此地に立てられた教會は、實にパウロの「喜悅と冠冕」(ピリピ書四ノ一)でありました。次はコリント後書二ノ十二、七ノ五―一四、使徒行傳二十ノ一にある場合で、即ち彼の第三旅行(紀元五十五―五十七)の時です。そしてこの間に彼れはこのピリピでコリント後書を書いたのでせう。それから第三は使徒行傳二十ノ三―六に見えて居る場合であります。さらに所謂牧會書簡を讀むと、彼はまたかねての希望通りに(ピリピ書二ノ二十四)再びピリピへ行つたやうです。但それは無論ピリピ書を書いた後のことです(テモテ前書一ノ三)

□パウロは熱心にピリピ教會を思ひました。教會も亦彼に盡すところが多くありました。その一例を擧げますと、彼がピリピからテサロニケに行き、同地に滯在して居つた時(使徒行傳十七ノ十九)、この教會は「一度ならず二度までも我が窮乏に物贈れり」(ピリピ書四ノ十六)とあります。然のみならず彼がコリントに居た時もさうでありました(コリント後書十一ノ九 ピリピ書四ノ十五)。實にこの教會は眞の意味に於てパウロの同勞者であり、また協力者でありました。思ふにこの教會が彼の爲めに盡したる善行美談は、彼の手紙に表はされて居らぬ方面にもこの外多くあつたことでせう(ピリピ書三ノ一)

□斯くの如き次第でこの手紙はパウロがピリピ教

會へ宛た感謝狀であります(一ノ三—十一。二ノ九—三十。四ノ十—二十)。そして彼の爲めにこの教會の贈物を携へて來り、偶病を獲たが今やその病も癒えて歸國の途に着かんとするエパフロデトに托して送つたものです。

□書中にはロマに於ける彼の生活の狀態を記し、彼が基督にありて喜しき生活をつゞけ居る旨を述べ、且つピリピの教會が斷えず喜に充ち滿つるやうにと激勵して居るのであります。

□それ故この手紙は喜びの手紙、また愛の文ともいふことが出來ませう。

□これはまた讀者に基督にある馨しき香を移します或は絶望を歡喜に、或は禍を福に感ぜしむる力をも有つて居ります。

□これを讀むと勿論パウロその人に接する心地がしますけれども、これはまた實に福音の力の記念碑として見ることも出來ませう。

□この頃のやうに萬事行詰つた御同様のいら〳〵した生活の中からでも、ピリピ教會の人々のやうな善行美談が出て欲しいもの、またパウロのやうな凱歌を擧げたいもの、これがこの講解を試みんとする主意であります。

人生は立派な賜物である。其中に價値なきものは一もない。如何となれば神の法則により最も偉大なるものも最も小さきものより出づるからである。我等は人生を浮薄輕佻、優柔不斷に過さぬやう努めねばならぬ。一切の言辭、行爲、働を擧げて、一の目的卽ち神の爲に用ゆべきである。

フロレンス・ナイチンゲール

翼を失へる詩篇

藤田精華

裸形なる我、野にありて
大空の下に立てり。
主よ。
君が大いなる恩慈の下に
我、裸形にして踊る。

我は喜悦にあり、
また悲歎に在り。
主よ。
君があたへ給ふその爵を
我、裸形にして飲む。

身に就きて我は
何事をも希願はじ、
主よ。
君が御心のまゝにのみ、
我を導びかせ給へ。

我は重きをも
また輕きをも望まじ、
主よ。
君があたへ給ふその十字架を
我、裸形にして負はむ。

心いま空に開らき
光ありて我をうてり。
主よ。
君が大いなる恩慈の下に
我、裸形にして讃美ふ。

高等教育を受くる女子に望む

東京女子大學々監　安井哲子

入學試驗をして一番强く感じた事は、高等女學校教育の未だ充分ならぬ事、殊に智的教育の基礎が充分に築かれて居らぬ事であります。之は勿論學校にも依る事でありますが、ある學校では實によく徹底した知識が授けてある。即數學でも國語でも又英語でも、眞に學力があると思はれる生徒が多く、從つて之等の學科に對する興味が充分に養成されて居るものがあります。併しある學校では、學科によつて輕重を殊更につけるやうに見ゆるところもあり、又或學校では教授の方法がよろしくない爲に、生徒の能力を充分に發揮し得ず、爲に或學科の成績のよくないものもあるやうに見受けました。

　私の切に希望する所は、女學校教育の智的方面を今少し引上げ、出來得べくば、小學校程度と同等になし、女學校だけの教育でも充分な理解力と基礎的の智識とが與へらるゝやうにせられ度き事です。之は女學校だけで打切る者にとつても、亦進んで高等の教育を受けるものにとつても、大切な事であると思ひます。

　私は女子の高等教育を必要と認むるにも係らず、基礎的智識の不充分な人、能力不足の人、及び身體の虛弱な人が、無理に專門の教育をうけるといふ事には賛成が出來ません。又之等の條件を具備へた人であつても、眞に自分を伸びるだけ伸ばして行き度いといふ眞面目な努力と、之に對する責任と、高等教育をうけ得る特權とを充分に自覺せねばならぬと思ひます。のみならず、自分に當然受くべきものを受くる權利の貴重と同時に、社會に當然與ふべきものを與ふるといふ責任の觀念を有たねばならぬ。即ち學問すればするだけ、其得たる何物かを周圍に與へねばならぬといふのであります。

實社會と直接の交渉を有する人と異り、親から受

けた學費で自分の好む學問を勉强して居る學生の生活には、他に對する責任はあまり明確でないかも知れません。商業にしても農業にしても、教育行政の仕事にしても、生活が實社會と結びついて居るものであれば、其人々の行爲は必ず他に何等かの影響を及ぼします。從つて自ら他に對する責任を强く感ぜしめられるのであります。所が學生にとつては唯學問をするといふ事が直接の責任であつて、之とても十の力を用ふべき時に七だけの努力を爲したからとて差程大きな影響を與へるものでありませんから、ともすれば實生活から全くかけ離れた世界、云はゞ想像の世界とでもいふやうなものゝ中に生活するやうになり易いものであります。勿論人生の中に斯る生活をなす事は實に必要でありますが、又之に伴ふ危險がないでもありません。それ故學生であつても決して机にかぢりついて唯本を讀むといふだけでなく、團體的生活と自分とを結びつけるやう努めねばなりません。

近來女子高等教育の必要が認められ、女子自身も彼等の兩親達も（若しわかつた親であれば）それを希望するやうになりました。之は誠に結構な事ではありますが、學問は流行でも虛榮の爲でもないのですから、先に申したやうに自己を完成すると同時に他に對して爲す所あらんとの、眞面目な精神と、之に向ふ充分なる努力とがなければなりません。

とかく婦人は男子に比して青年期の短いものであり、從て學究的精神の失せ易いものであります。男子にとつて一の專攻の學問はそれが生涯の事業であると同時に、生活の土臺となつて居ります。それ故學究的の立場と生存上の必要とから、男子は永く學徒として研究を續けます。然るに女子は周圍の事情にも依る事でありませうが、入學の當時すでに卒業後の豫想に捕はれ易い傾向があります。結論を急いで其道程を樂しむといふ事が出來難いやうです。けれど女子も事情と境遇との許す限りは、永く學究的精神を持續したきものであります。（談話筆記）

聖フランシスと聖クララ（承前）

小出正吾

遊蕩兒フランシス

丁度春の微風が花園の芳香を何處からともなく運んで來る樣に、かくして廣莊なシフィ家の邸内に小鳥の樣に温く育まれた、少女クララの耳にも同じアシジの邑の豪商ベルナルドネ家の長子フランシスの「愚行」の噂が傳へられるのでありました。

フランシスが生れましたのは、クララの誕生より凡そ十二年先き、多分一一八二年と傳へられて居ります。この嬰兒はその年の九月の或日、サンルフィノの寺院の美しいロマネスクの泉で洗禮を授けられました時、柔さしい母マドンナ・ピカによつてジョワンニ（ヨハネ）と名づけられましたが、やがて佛蘭西への旅行から歸つて來た父ベルナルドに依つてフランシス（若くはフランチェスコ）と改められて了ひました。父は其子を氣風も作法も品の好い本當のフランス人らしく育てやうと思つたので、あの駱駝の毛衣を着、野蜜と蝗を食べて野に叫んだ洗禮のヨハネの名前などをつけるのは、氣に入らなかつたに違ひありません。

此富豪の長子が生ひ立つた時代——十二世紀の終りから十三世紀へかけて——と言へば全歐州は騎士道の花盛りで、彼等の理想はプロヴンスの戀愛の宮廷やシチリアのノルマン諸王のもとに榮えた樣な騎士の生活であつたのであります。有名な佛蘭西の巡歴詩人たちは、宮廷より宮廷へ祭より祭へ、終りなき旅をしてイタリアの半島を隈なく巡つて歩くので

した。到る所にプロヷンスの「武功の歌」はさゞめきアーサー王と圓卓の騎士の歌は唄はれました。こう言ふ時代に生ひ立つたフランシスの血管には、生を樂しむプロヷンスの熱い血潮が流れて居たのでせう。フランシスは手にした財寶によつて快樂を得、金貨をば飾りと悦樂に換へやうとしたのです。酒場より酒場へ。あの疎らな樹木で陰づけられた石の家々の間から、平野の輝を見渡すアシジの街を二色に染め別けた華かな衣裳に、羽のついた絹帽子を被つて貴公子達の群が踊りつ歌ひつ遊び歩きます。琴やヸオラにあはせて、踊る歌の眞先に王侯のやうにマントを纏つて笏を握つて居るのが青年フランシスなのです。

粗暴なフランシスに就いて人々は兎角の噂をいたしました。けれども彼の母ピカだけは、私かに息子の爲めに泣いて居たのでありました。彼女は人々の告口に對して「私は希望をもつて居ります。神樣のみ意であれば彼もいつかは立派な神樣の子供になりませう」と靜かに答へるのでありました。

騎士の榮華を夢見てフランシスも遠征の途に上りましたが、戰破れてペルーヂヤに虜となり、二年の後故郷へ歸へると再び耽溺の生活を始めましたが、やがて倒れて重病の床に臥して了ひました。トマス・アケンピスが申して居ります樣に、時に困難―十字架の與へられることは良いことであります。其處で人々は屢々自分自身の奥深くへ入り、自分が如何に罪せらる可き者であるか、又此世のものが如何に賴むに足らざるものなるかを知らしめられるからであります。數週の間フランシスは全く嚴肅な死の面を凝視て來ました。彼は始めて孤獨の奥底に神秘な聲を聽いたのであります。

春のポルタ・ヌオワ

其は千二百四年の春の日のことです。漸く病の癒えたフランシスは、やさしい母の勸に從つて象牙の杖に身を託しつゝ、自由な郊外の方へ歩いて行くのでありました。やがて彼は町外れの新しの門迄やつ

て來ました。

見渡すならばモンテスパシオの麓、オンブリアの平原、橄欖の茂みや葡萄畠、透き徹るやうな青空、降りそゝぐ日の光、野路を歸る羊飼の少女が唄ふ民謠の節……彼は回復期の鋭い希望を以て、この春の匂ひのうちに、豊かな青春の生命を吸ひ入れやうと思ひました。併し愛すべき春の微風は彼の願とは反對に本當に悲しい使者でした。大自然の前に立つた彼は今や自分の本當の姿を見つめたのです。悲慘な空虚の姿を。

あゝ塵！　塵！　全てがうつろひと死だ！　無常と空だ！　一つの祭壇なき靈魂の寂寞！

其の寂しさは肉體の病の千倍にも勝つた苦しさを以て、今や彼の心へと襲つて來るのでありました。

彼は茫然と過ぎ來し方を眺めました。そして杖にすがつてとぼ〱と我家へ歸つて參りました。彼が健康を回復すると同時に、再び高名の幻影を追つてアプリアの征途に上り、而も途中スポレトの泊りの一夜、夢の中に神の招命を聽いて忽然歸還し、アシジに近い廢屈に入つて斷食と祈りの勤行を續け始めたのは、其から間もないことであります。

純潔な花嫁

少女クララは又こう言ふ噂を耳にしました。

其は千二百五年の夏の夜のこと。友に誘はれてフランシスも盛な宴會の仲間入りをし、いつもの樣に廣場へ出ると青年の群は踊り歩くのでありました。しかし何故か其夜のフランシスはもう彼等に合はせては歌ひませんでした。唯獨り釘着けにされたかのやうに大空の星を眺めて佇んで居ました。其を見つけて一人の醉つた友が言ひました。

「おいフランシス如何したい！　君は立どまつて結婚のことでも考へて居るんかい？」

フランシスは靜かに答へました。

「さうだ君、僕は結婚のことを思つて居る。けれども僕の慕はしい花嫁は君等の想像より、もつと美しいもつと富んだもつと純潔な花嫁なんだ」

彼は今迄の友達との間には、今や全く深淵の橫はつて居るのを自覺したのでせう。そして彼は祈りと貧困者と病者の方へ走つてゆきました。

フランシスの噂はクララの心をば希望を以て波打たせずには置きませんでした。

フランシスが一生を託そうと決心した花嫁の姿——其はクリスト・イエス樣、輝かしい淸貧の生活、無所有の愛の生涯。眞の生活。此世の全てを失つて神の一切を所有する限りなく富める純潔な一生。おゝ其がベルナルド家の息子の選んだ慕はしい花嫁である。自分の盛名を目ざして高く〳〵築いて來た華かなバベルの塔が、一瞬にして崩れ果てると、フランシスは生れたまゝの裸となつて、地上に跪き神の恩愛にすゝり泣くのである。……こう考へると神の童女クララの眼は、譬へばマグダラのマリアが主の御足許にひれ伏してあつた時の如くに、永遠への敬導者の指す方を明かに感ずるのでありました。

それからのフランシスの風聞は、益々クララの耳を欹たせるものばかりでした。彼は獨ローマへ行きました。そして歸つて來ると、彼の怒れる父の前へ最後の着物を返上して、全く赤裸々の自由なるフランシスになりました。それからの彼の姿はアシシの街に、灰色の衣一枚を纏つた洗足の托鉢僧として見られるのでした。この驚く可き轉回の後のフランシスの愛は、人々の靈魂に光と喜悦とを注ぎ、彼等の良心を醒めしめ、鳥と語らひ、狼と歩み、眞の平安永遠の音樂に醉はしめたのです。「何も持たざるに似たれども全の物を持てり」之が彼の愛に燃えて、心靈的家族として集つた「兄弟」達の生活でありました。

サンルフイノの寺院にて

父から勘當された我聖徒が、說敎の免許をローマ法王から與へられて、平和の天使の如くサンルフイノの敎壇に立つたのは、丁度クララの十六の歲でありました。クララは父の許を得ると、吸はれる樣な堂母の席についたのでした。フランシスの說敎——

光の如くに降り來る彼の語――あゝ其はクララの胸に秘められた秘密な悲しみと、訴へるところのない深い〳〵煩悶とを観破して彼女自身の爲に物語られて居るとしか思はれませんでした。幼いときから育まれたクララの心情の敬虔さと、燃えてありしもの熱してありしもの、神への憧れの凡てが、不意に吐き口を見つけた湖の水の様に、彼の指す方へ驀に奔流するのでありました。父母の勸める華かな結婚を拒んだ彼女の心は、今こそ一生を獻げて走るべき途を見出したのです。フランシスの叫び、彼の實行する生活が、確に彼女の歩むべき道である。又神はそれを欲し給ふとクララは信じ切つたのでした。かくて一族の女ボナ・グルフッチに伴はれて、彼女はサンルフイノの寺院で聖フランシスに會ひ、彼女の心を其儘打開けるのでありました。フランシスも又、既に敬虔なる童女クララのことを耳にした時から「此様な靈魂を惡き世から奪ひとつて、それで主の卓を富まそう」と願つて居たのでしたが、今彼の前に聖獻の涙を以て跪ける聖女を見る時に、何をいふ愛と喜悦の靈魂の調べが、彼を感謝にすゝり泣かしめたことでありませう。

個人と個人の靈魂の自然な神秘な結合――其は決して一時的火花ではなく、又神殿の外苑でもない、實に永遠の至聖所に咲ける純愛の花――其以外の結合を想像する事が、單に墮落であるといふばかりでなく、全く不可能であるとせられる程に、純潔な高貴な魂があります。かくの如きものが、聖フランシスと聖クララとの愛であつたのでした。

丁度ダンテのビアトリチエに於る如く、彼等の靈魂も最初の會合に於て、同じ調べを奏でつゝある永への友なることを感じたのでありませう。併し其は神の譜です。彼等は神の譜を奏でることによつて、固き仲であるのです。

「唯あなたの肉體を神の宮としてのみ守り、決してキリストの他に花婿をお持ちなさいますな」

崇厳に聖フランシスの語は囁かれました。今より

フランシスは全くクララの魂の導者でありました。彼女はも早や父母の望みであるといふ理由ばかりで一人の男性に自分を與へるといふことが、如何しても神に對する人の義務だとは思はれませんでした。もう最後の一歩を踏み切つてまでも、徹底的に導き者フランシスの指す方へ向つて走らうとしました。

其は一二一二年のこと。サンジヨジオの會堂の内に座つて、フランシスの語り出づる贖罪について、又自ら選べる貧しさについて、天國の懐しさに就て而して我等の爲に十字架につき給ひし主耶蘇の裸なりし事、主のうけし侮辱と聖き受難について聞いて居た時、彼女の心は燃えあがり、直に出でゝ美しき服をぬぎすて、主耶蘇の如く又フランシスの如く、満足と勞働と祈りと平和と、そして歡喜のうちに生きやうと願つたのでありました。（未完）

春の歌

村岡花子

我が心いとすこやかに妻らしう大人びて行く春のこの頃

大空の星の怨言かわびしさのかすかにてもる春の夜の雨

パンゼーの花に目があり口があり我と對へる眞晝日の下

海見れば足よろめきし其のかみの幼な心もなつかしきかな

夜もすがら我を包みしゆめの花散らさぬほどに朝の雨降る

たゝずみて紺青の空をふり仰ぐ我がたましひの靜かなるかな

君が胸に歌ふ小鳥の我にして此のさびしさはいづこより得し

修養か聖化か

基督教週報より轉載

自己の修養鍛錬に因りて高潔なる人格を贏ち得る人がある。神の恩惠に浴し、聖靈の恩化に由りて圓滿清高の人格を有する人がある。兩者共に尊むべく敬ふべく又望ましくある。然し聖書は前者たる事を獎勵して居ない。唯後者の如く全く神に化せられたる神の子たらんことを力說するのである。修養といひ鍛錬といふも、必ずしも惡い事ではない。然し之何人にも容易に熟達し得らるゝ所ではない。唯僅かの人々のみが辛うじて贏ち得る境地である。此處に强く自己の努力を感じ、一種の傲慢に陷る危險がある。されば所謂自己修養家にして、其修養鍛錬の苦心奮鬪を誇らざる者が幾人あるであろうか。若し果して此誇りを有するならば、此修養鍛錬が却つて靈魂の救のため障害となりはせぬであろうか。自ら高くする者は卑げらるべしと主キリストは仰せられた。修養鍛錬の裏面にはかゝる大なる危險が伴ふて居る事を忘れてはならぬ。

神の恩化といふ方面には、かゝる危險は決して伴はない。彌々恩化に浴して益々清高の人格に到達すればする程、自己の弱く小さきを感ぜしめられる。其結果は益々謙遜となり、信仰となる。自己修養の人にありがちなる傲然嚴然毅然として近付き難きに反し、恩化の人は靄然として其所に云ひがたき暖かさ親しさを感ぜしめられる。然も此恩化は自己の力にてなすに非ざるが故に、眞に神に賴る者ならんには何人も之に浴する事が出來る。されば基督教に於ては所謂此世的の修養なるものはない。もしありとすればそれは信仰的修養である。自己の弱きことを誇らんとする修養である。神に依り賴むことを修養する修養である。

斯る修養は基督者の一生の事業である。此事業に

失敗するならば、其他の事に於て如何に成功してもそれは失敗せる成功である。名譽、富貴、財産を得高位高官に陞つた所で、神の恩化を蒙る事がなかつたならば、基督者として――然り神の子なる人間としては沐猴の冠する類である。官吏、商人實業家等として成功しても、人間として失敗しては駄目である。余は事業に成功して、人格に失敗する者多き現代を心から悲しむ者である。此點に就て我等は本末輕重を謬らないやうにしたいものである。

主キリストは「汝等の光を輝かせ」と仰せられた之は上述の聖化せられたる人格より出づる自然の光である。光といふものは、自然に光るものである。光らずして居られぬものである。聖化せられたる人格は一種の發光體である。光らないものを無理に光らせやうとすると却つて滑稽になる。滑稽ですめばよいが、更に僞善になつて却つて神の榮光を傷ける事になる。自然の光！　聖化せられたる人格より出づる自然の光！　それのみが神の榮光をあらはすのである。實際不自然な態とらしい善言嘉行を見せつけられる程、癪に障ることはない。僞善的な祈禱を聞かされる程苦痛を感ずることはない。光りもせないものを無理に光らせやうとするのは、實際一つの僞善である。

昔時モーセは四十日四十夜シナイ山に於て神と相面して居つた。彼が山を下つた時に、神の恩化によつて其顏から光が發して居つた。之其人格の恩化が外面に現はれたものである。然るに「モーセは其面の己がエホバと言ひしにより光を發つことを知らざりき」（出三四〇二九）とある。これ程の聖化を自分には一向意識して居ない。此意識して居ない所に偉大なる所以がある。此所に聖化の聖化たる所以がある自ら知らずして自然に發する人格の光は實に貴いものである。かゝる光を輝かす時に、眞に神の榮光を發揚し奉ることが出來る。（篠塚生）

エレン・ワトソン（續）

森田松榮

エレンの大學生活は非常に樂しいものだつた。彼女を敎へた二敎授は、エレンは獨創の數學的天才を有つて居ると推稱した。

この時エレンが敬愛し心服してゐた敎授の一人は、まだそれほどの年でもなかつたが、肺病の爲、職を退いて、夫人に看護されつゝ、友人や弟子に生別して、醫師から最後の宣告を受けた身を母に任せて、海へ去つた。

廿三歳の時、エレンは一年を家庭に過したが、肺患がよほど進んだらしいので、止むなく仕事を一時全く廢して、一友人と獨乙へ旅行をした。轉地でよほどよくなつたので、エレンは歸國後個人敎授などをしてゐた。

彼女の唯一の希望は科學の蘊奥を極めることであつた。彼女は學者も驚嘆する程の天才を有ち、又境遇に支配されることなく、大學に在つても、忙しい家庭にあつても、孜々として倦まない身力を有つてゐたから、前途に、希望の光は輝やいてゐた。

然るにエレンの病身は、少康の後、又々甚だしく重くなり、科學研究は全く消えかゝつた。彼女の唯一の希望の唯一の生甲斐ある目的が今や影を消して了はうとしてゐた時も時、生別したかの敎授の逝去の訃音は彼女の手に落ちた。

エレンの宇宙觀は、滅茶々々に壞れて了つた。彼女はこの時ほど、無力と微弱とを感じた事はなかつた。此頃のエレンの手紙の一節には左のやうなのが

ある。

「運命の糸は一筋でも緩められないものだと私は思つてゐますのに、この世でなければ、ほかの世で逢へますやうにとおつしやるあなたの祈禱に就ては、私は何といつていゝか分りません。けれども私はあなたの其信仰が私にも有てたらと願つてゐます」

「人々の爲に盡したり、事へたり、助けたりすることが私にも出來そうな氣がします。意思と願望とは實際强いものですから、私のやうなか弱い者でも、何か出來はしまいかと思ひます――單に智識上ばかりでなくもう智識は今少しも私を滿足させないのですから」

精神の力は恐ろしいものである。境遇に打勝つた彼女は、自分でさへ認めてゐたかよはい病體を使役して、猶も研究を續け、科學の試驗によつて、學士の稱號を得た。然し一方肺患は益々重くなる斗りであつた。

兩親はエレンの身を案じて、歐羅巴へ轉地させやうとしたが、彼女は自ら進んで南アフリカを擇んだこれは彼女が轉地と同時に、遙かな南國で、次代の人たるべき兒童の敎育を熱望したからであつた。

左はエレンが友人への告別の手紙の數節である。

「私の信仰の形式に、あなたは滿足なさらないと思ひますが、たゞ時々、私は神、即ち永遠の善が、世の中に、又私達の裏(私自身じやないのです)に宿つてゐる樣に思ひも信じもします。神の靈が私の裏に在る時には、私には、堪へきれない悲みといふものはない樣な氣がします。私の信仰箇條は「我は神の愛を信ず」つていふのです。これさへ私にはぼんやりしか分りませんけれど。」

又程經ての手紙にはかう云つてゐる。

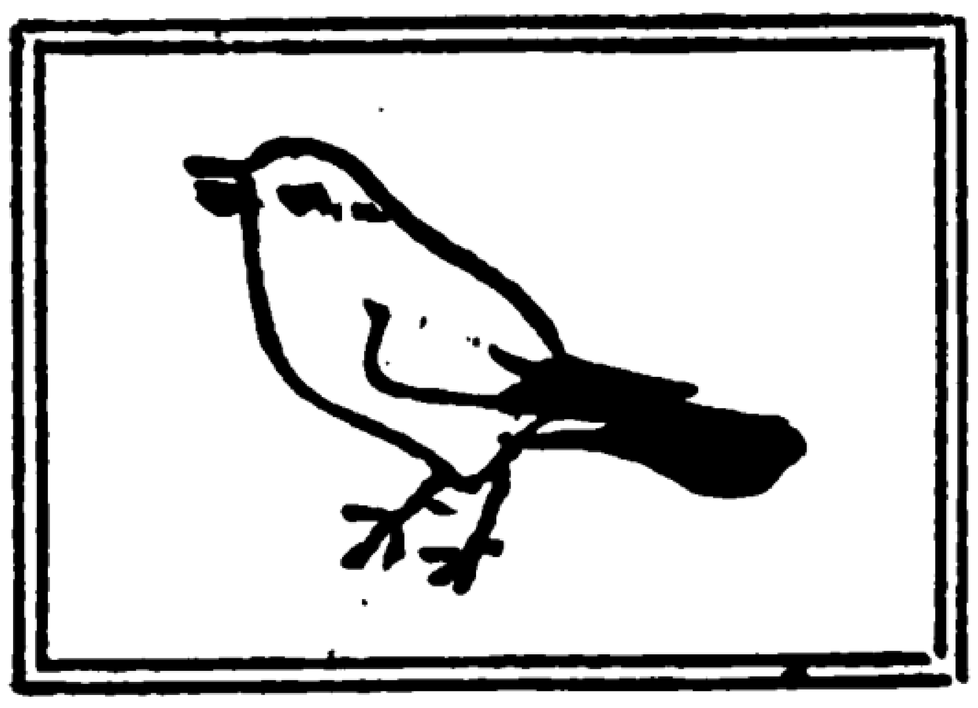
「私の信仰といふのは――信仰と云はれるほどのものかどうか分りませんけれども――かすかに示された光明が近頃だん〳〵はつきりしてきますのと、新る事をあなたに敎へて頂きましてからは、祈禱が生命そのものゝ一部となつた樣に思はれることで

す」アフリカから一友への手紙にはかうあつた。
「私が毎日あなたの爲にお祈してゐますと申上たらあなたはさぞ吃驚なさるでせうね」
又他の手紙にはかう云つてゐる。
「私は神の臨在を經驗いたしましたから、神を信じます。そして若し、愛し崇めることが信仰ならば、私はキリストを信仰します。……今は親しいみんなと離れてゐますから、その人達のために祈ることから得る慰籍を求めずにはゐられません。祈りに於て私達の衷に一樣に宿り給ふ聖に於いて、私達は一つになれますから。それで、あなたの爲にも毎朝お祈りいたします。」
彼女の信仰は一すぢに進んでいつた。
「私は神樣に自分をお任せ申して、まことに幸でをります」と書いた手紙もある。彼女は又「聖潔」といふ事を大層重んじ、何事にもこれが第一であると云つてゐる。
南アフリカでエレンは女學校を敎へるかたはら、新聞や雜誌に筆を執つた。彼女は文才も豊であつたので、寄書した論文や、學校に於る講演等も美しく今なほ保存されてゐるといふ。彼女の死後遺稿の中から、小說の斷片も出た。
　エレンの信仰は靜かな然し緊張したものであつた彼女は毎日午前八時から午後八時迄、一時間毎に一つの聖句を擇んで靜思のしをりとした。（未完）

前號所載譯詩「年をおとりでない」第四節第二行以下左の如く訂正す。

働きつゝ、愛しつゝある間にも、
私の呼吸のつきる時が來たならば、
私は跪いて聖父の御旨をうけやう。

（M・M）



誌友の頁

投書を歡迎致します。匿名で差支へありません。論文、感想、詩歌いづれでも結構です。締切十五日

墓の道連

丸茂りきの

「左様なら」とか「御機嫌やう」とか言ふ別離の挨拶は、何となく人の心を悲哀寂寥の淵に追ひ遣ります。それ故如何に青雲の志を抱き、希望に溢れつゝ勉學の途に向ふ時と雖、健康を祈られ、有望なる前途を祝され、殊に誘惑に對する眞心よりの訓誡を與へられ、ねんごろなる訣別の下に親を初め血族朋友に見送られながら、なつかしき家庭、住みなれし故郷をあとに、出で行く時は、流石に云ひがたき悲哀寂寥をおぼえ、湧き出づる涙は理をもて到底抑へることは出來まいと思ひます。されど生きながらの別離は、悲哀寂寥の奥に猶いつか又相見る希望の日の光が輝いて居ります。けれども死別のそれには、唯冷さと暗さとが待つのみであります。

さき頃或記事の中に、病氣の爲に世を去つた妻女の名を追慕されて「太陽の光のとゞく所ならば、どんな事があつても一人旅はさせまいものを云々」と記されてありました。何といふ悲痛な叫でせうか。

人生に於て、死別程嚴肅な悲痛な事實はありますまい。けれど之は生あるもの丶、いつか一度は遭遇しなければならぬ運命です。長く短く、此世に於る樣々の活劇を演じ終り、呼吸の動作の止むと同時に

死の宣告をうけて、此世に於て憧れし富も、慕ひし戀も、求めし名も、追ひし知識も、すべてを投げ棄てゝ、唯一人暗い冷い墓へ行かねばなりません。

けれども此所に力強く感ずる事は「我を信ずるものは死ぬとも生くべし」と仰せられて、自ら死より甦り、永遠に存在する神の子イエス●キリストてふ限りなき生命の持主を、歴史的事實の下に、私共人類の中に見るこの一事であります。それ故彼を信じて、彼の中に限りなき命を見出す時、彼は必ず私共一人々々のために、墓の道連れとなり給ふて、先ち行く者も、後るゝ者も、皆キリストと共に永遠に生き得るものと信じます。これは決して、唯靈魂不滅を唱ふるものではなく、信仰の眼に映ずる來世に對する希望の光であります。キリストは光それ自身であります。太陽の光のとゞかざる見ざる世界まで道連れとなる者は唯イエス●キリストあるのみ。

日記の中より

水野きよ子

○

信者といふ衣を不用意に着る事は眞におそるべきことである。内にまことの新生命なくして、外に新しき衣を着す。其所に虚僞の生れ出るのは當然である。古き己が新しき衣の上に、にじみ出んとするのを止めやうとする。それは不自然な形となつて、醜いみにくい有樣を示すに至るのではあるまいか。

◎

此數日又しても自己の眞相を鮮に見せつけられて一人惱んで居る。狹き淺き心と、汚れた感情とに支配され、他人の幸福を心より喜び、祝福を衷心より祈り得ない。もとより其樣な歡喜と祈願とが全くないといふのではない。けれど其奥にひそんで居る不純な感情を嘆き悲しまずには居れぬ。それは同時に神の愛に心から感激し得ず、聖旨に絶對の服從をなし得ない鈍魂である。

「神よ我唯一事を祈り求む。我内なる古き己を全く打亡ぼし、苦き根を悉く斷ち切り給へと」

○

私共に與へられた一厘一歩でも無益に費すことは祝福を受くる大なる妨である。同樣に私共に許された一時一分をも、我まゝと汚れとよこしまとに過す事は大なる罪である。短い人生には、實際、憎んだり、恨んだり、妬んだり、怒つたりして居るひまはない筈ではないか。

○

一日の業を終りて、

神よ此日ひと日、我が思ひに言葉に行爲に、不眞實不潔高慢ありしならば、今明にそれをさとらしめ、二度同じ過失と罪とに陷ることなからしめ給へ。

我思ひに惡のひそみしか、(それ例へ瞬間なりとも)胸にとげのかくれ居りしか、(たとへいと／＼小くとも)知らしめ給へ。弱くして、而も高慢なる我は、靈肉ともに汝の大なる助と力とあはれみとを切に求む。願はくは主よ來りて我内に住み給へ、我をして唯汝のためにのみ、而して汝によりてのみ、生くるものとなし給はんことを。基督の聖名に於てひたすらに願ふ。

○

自分の一日の働の動機をよく／＼考へて見た。果して神の榮の爲、基督の聖名の爲、我が一日の行動は聖旨に從ひつゝなされたであろうか。神の榮よりも自己の名譽の爲、基督の聖名の崇められんよりは自己の價値の認められん爲、との不純なるものゝ影がひそんで居りはしなかつたか。

一日の生活の價値は其結果ではない。其動機である。私はもつと此點に純粹なものとならなければならぬ。私は全々神の手に奏でらるゝ樂器となり度い

◎

「悔恨は弱者を失望せしめ、強者を聖者たらしむ」の一句を或書に見出て心躍るをおぼへた。聖者の出所は悔恨にある。深く悔ひ得ざるものは、高き聖きに至り得ない。悔恨は苦痛である。「然し悔ひ得るものは幸福である。

「悔は悲しき日没にはあらで、新しき日の黎明なり」

◎

K牧師説教の斷片、

○植物の中にある生命の旺盛は、人をして其勢をうらやましむ。されど、そは生命の意味を意識せざる命である。人の生命の尊さは、其意味と價値とを意識し、神の聖旨に從ひて之を永生の目的に向はしむる所に存する。

○人の生活は波瀾曲折あつてこそ、常に目醒ることが出來る。神はよき程の苦痛を與へて我等の目を常に醒まさしめ給ふ。

○人には内外に斷えず戰がある。此戰に備ふるためにかくれがを我等は要するのである。眞にかくるゝ事なき者は、又眞に出づることも出來ぬ者である。かくるゝとは退きて基督の生命に充さるゝ事である。

汝等立歸りて靜かにせば救を獲
平穩にして依頼まば力を得べし。

一人一靈婦人祈禱團（一名倍加運動）

荻村操

今度私の屬するバプテスト三崎教會婦人會の主催で、一人一靈婦人祈禱團なるものが設けられ、二月から毎月一回此集會を左の主意目的の爲に開いて居ります。即ち自己の救はれたのに感激して居るものが、未だ救はれない一人の靈を目當にし、如何にもして神の力により救はねば止まぬといふ赤誠より、一人の靈の氏名を發表し、名簿に登錄し、各自斯くの如くして集合し、第一自己の靈性の潔められん爲充されん爲に祈り、且奬勵をうけ、後に目當にして居る靈の爲に熱禱を獻げて居ります。

斯くして六ケ月内に目當にして居る人が如何なる程度迄導かれたかを發表するのですが、其前に救はれた人のある時は其都度發表し、又新しき靈の爲に祈るのです。

あゝ私共の切な祈、神は確實に答へ給ひます。現に早信仰に入りし姉妹もございます。老若を問はずひとしく神の前に跪くとき、私共の胸に神の御囁を覺え、心からなる讃美を以て集會を閉ぢるのでございます。

女子青年會本部

四月十日午後二時より中央委員會を開催す。出席者委員井深、志立、今西、デントン、フエルプス、リード、幹事ページ、マクレン、ヴエリー、淺井、堀、

一、開會、井深氏聖書朗讀、デントン、淺井氏祈禱。

二、前會報告、堀、承認、

三、會計報告、同、同、

四、井深氏、リード氏を財政委員長にデントン氏を財政委員に指名一同承認。

五、幹事委員報告。ミセスフエルプス。

イ、二月二十五日山田屋に於て三谷フエルプス河井氏出席、留學生候補者に關し協議規定をなす。

ロ、井深、フエルプス、ページ氏等四月九日に會合し、米國より派遣さるゝ總幹事承認の旨を萬國女子青年會本部に通知することゝす。

ハ、カフマン氏歸國につき、東京市部委員は其留守中ページ氏に代人となられんことを懇請す。

ニ、デクマン氏佛國の總幹事に任命されたれば來朝おぼつかなし仍つてフリードマン氏を工業幹事として派遣されん事を米國青年會に依賴する事、フエルプス、ページの二氏に右の件一任の事一同承認、

ホ、新に幹事委員二名を擧ぐること辻氏及マクドナルド氏指名されデントン氏リード氏賛成一同承認。

ヘ、河井氏アダムス氏と協議をなし、新幹事の研究すべき問題及時間數を左の如く定め各市部に送附す。

聖書三時間、社會學二時間、青年會一班三時間（歷史組織及管理法等）英語二時間合計一週十時間、綱目は任意、外に實地研究

六、雜誌報告。淺井氏。

從來金壹圓なりし雜誌代を壹圓五拾錢に値上げせり。市部會員には特別の割引をなし壹圓貳拾錢にて送附する事とす。

七、修養會委員報告ミスページ。

イ、第十五回夏期修養會を來る七月二十二日夕より三十日朝迄催す事、其會場及寄宿舍の件に關し、フエリス、共立の兩女學校

に依頼問合せ中。

ロ、若し關西市部の委員幹事等が修養會を同地方に開催する事を欲し、其主責任を負ふ覺悟ならば、同地方に一つ催すも可ならん。

八、市部報告　　同　氏

イ、神戸市部は現在の家屋全部を借りうけたり。

ロ、横濱市部にては會員募集に太成功をなし、新會員八百五十名以上に達せりと。

ハ、東京市部にては四十人以上の事務員がクラブを組織せり。青山女學院出身の岡崎小文氏學生部、英學塾出身の酒井愛予氏教育部の擔任とならる。

ニ、大阪市部にては二名の幹事を要求し居れり。

九、マクレン報告。多くの人々と交際を爲し居る中市部の爲に働人を得しを喜ぶ。昨今は數名の渡米者の爲準備にて多忙なり。

一〇、ページ報告。

イ、フリードマン氏と共に神阪の主なる工場及其關係者を訪問す

ロ、四月十六日京都に赴き二週間滯在の豫定。

一一、新事業。

イ、マクレン氏近日來朝のラックフエロー夫人招待の件を提出。一同賛成、今西氏に依頼して時日の交捗をなす事とす。

ロ、ページ氏アダムス氏に湯沸を贈呈せし事を報告。其謝狀を朗讀す。

ハ、横濱市部提出事項。（一）外人寄宿舍の必要逼迫せり。ミセスモリソン一ヶ年間其爲に働かん事を提出されたれば、其爲に金五十圓位の給金を米國青年會本部に依頼することに決す。中央委員の承認を求む。一同承認。（二）現幹事住宅は聖公會傳道會社の所有にして、價格千二百圓の賣物なれば米國本部に依頼し買ひうけんと欲す。中央委員の承認あらんことを。一同承認。（三）會館敷地の候補地見當りたれど坪二百八十圓といふ高價の上、北向なれば思はしからず。

ニ、清流女學校閉校につき同校青年會は同盟を脱するの止むなきに至れり。

ホ、河井氏の提出により井深氏を通して永島博子氏を中央委員に依頼する事とす。右二件一同承認。

ヘ、クレメント夫人歸來につき辭職を申出でられたれど、委員一

同留任を願ふ事とす。ト、ミスカット五月十六日横濱到着の筈なれば歡迎會を催す事とし、今西、志立、マクレン氏等を該委員に舉ぐ、

一二、五時半頃閉會。以上。（堀氏報）

○本部維持費として寄附

山本多穗氏　五拾圓

清流女學校青年會　八圓九十五錢

高橋繁太郎氏夫人　參拾圓

大阪女子青年會

○故廣岡淺子女史紀念會　本會創立當初委員長として各方面に會を指導せられた故人の記念會は、出席二十幾名かに深い教訓を幾つか與へた。故人の寫眞を前にして、幾人かの口から逸話逸事が美しく物語られた。信仰に入られた當時幾百人かの信者の婦人の集で「私は年は取つて居るが信仰にかけては赤子である皆様の指導を受けねばならぬ」と謙遜に語られたこと後進婦人の道を開くといふ大きい抱負に向つて勇しく、戰はれた勇氣共に我々の學ぶべきであるとマデン夫人は語られた。星野夫人は信仰に入られた當時の故人の歌を紹介せられた。「思ひきや外にもとめし永への生命は我のうちにありとは」親しい深い關係を以て故人を追想し得る當會は眞に感謝すべきである。

○少女クラブ指導者養成　レーンポークラブ事業に興味を持てるミスアレン及宮島さく子氏は宗教學校卒業生中より、此爲特志に働く人を出し度いとしきりに働いて居られる。そして其養成の組を一回開かれた。今後も續いて催される計畫である。

○建築資金募集とパジエント　建築資金募集は確實なる信仰の上に立ち、會員一同によつて始められねばならぬ時となつた。會の精神と事業との宣傳が何より大切なる時機となつた。其第一着としてパジエントを公演する事となつた。確い信仰と祈とを以て指導の任にあたられて居る幹事ハード氏の爲に、又各種の準備にかゝられて居る委員方の爲に御同情と御助と御祈とを願ふ。

東京青年會報告

○幹事會四月六日(火)午前。
　三月以來幹事等の移動多く心細き感ありしが、岡崎小文、酒井愛子の二氏を迎へて大に力を與へられ、仕事運轉開始前一同集り祈禱會を開き、上よりの祝福を仰ぎ相談會を開きました。暫時春休みにて靜かなりし會館も引續き委員會新舊生徒諸氏の出入等にて賑はしく玄關係を初め一同張合多き多忙さになつてきました。

○總會五月八日(土)午後二時。
　本會第十四回の總會を開きます過去一年間の事業報告、講演、音樂等があります。會員諸氏には是非御出席下さるやう願ます。

○鐵道従業員クラブ例會。
　四月十日(土)午後三時より開會上野分室、田山琴子氏の初めての司會振りは、誠に落つきよく出來ました。中部管理局庶務課に居らるゝ熱心なる信者戸塚運平氏の御話で、出席せし四十六名の人達は慰安と力とを深くし感謝に溢れました。昨年初めて鐵道院を訪問せし時、信者なる戸塚先生に御目にかゝり、一層便利なる道を開かれました事は實に不思議な神の御導でした。それ以來一ケ年にしてクラブが組織され斯く盛んになつたのを同氏は特に喜ばれ、一層の援助を與へんと約束されました。

○讃美禮拜三月十八日(日)午後。
　文學士豊田實先生のクロスビー女史の生立ち讃美歌作等に就ての御話あり、同夫人は同女史作第百八十番及詩篇八十四篇の歌を獨唱され一同其美はしき御聲に打たれました。後クロスビー女史を思ひつゝ同女史作の讃美歌二つ三つを一同にてうたひ、久振りで名にふさはしき會合をなし日曜午後を過しました。七十餘名出席。

英語の組

○四月には十五日迄に六十餘名の新入生がございました。十日には豫定の如く學期始めの集を催し、百人程の出席者がございました。新い組は午後と夜に一つ宛其他新に午前の組を設け、他の組より時間を多くし、家庭にある方々にて

女學校以上の英語を學ばれんとする方々の便宜を計りました。ミセスレングレー、ミセスダウテー、ミスモリシ、及今年英學塾を御出身の吉岡さく、石渡久、西芳子、村田友子の諸氏が今學期より新たに英語の組を御援助下さる事になりました。

○お花見時で家庭の方々の御忙しい時節柄、お料理、ミシン、裁縫の組は目下減じて居ります。多くのよい先生方を與へられて居りますから會員の方々の御出席を希望致します。

○御病氣で御休でした原田先生が再聖書の組を御敎へ下さるやうになり一同喜んで居ります。又青山女學院出身の松宮だま子氏が朝の英語の組の方々に、聖書を御敎へ下さる事となりました。

○四月十五日夜英語社交會を催しました。同會委員方の努力で此日は特にチエリーパーチイーを開き室內裝飾も御菓子も會話の話題も櫻づくめで春の氣分が漲つて居りました。當日は英國の婦人軍人のキヤプテンとして佛國戰線に出征されし、ミセスモリソンより櫻の花にふさはしい戰地經驗談がございました。此興味深き會合に出席者の少數なりし事は殘念でした。英語を御勉强の方々がもつと此會を利用され、御出席になりますやう希望致します。

○四月十七日夜常會の聖書及敎育部の先生方を御招きいたし、懇談會を開きました。

夏期修養會
委員會報告

○四月六日田町本部にて委員會開催出席者星野愛子（委員長）山田琴子、川戸環、ペーヂ、堀の四氏

○副委員。左の方々を依賴すること。

長谷川喜多子、林さだ子、渡邊ふみ子、加藤たか子、川戸環、橫澤つぎ子、內田邦子、野村美智子、山田こと子、淺井治子、佐藤りう子、坂本花代、日比忠子、ミスペーヂ、ミスルーミス、堀順子、此他フエリス女學校より一名。

○場所フエリス、共立の兩女學校に問合せて決する事。星野氏に話

す。

○時日七月廿二日夕より三十日朝迄。

○委員の區分。

イ、事務委員。堀、他二三名。

ロ、音樂委員。林、他二三名。

ハ、順序委員。ページ、星野、山田、川戸、淺井。

ニ、寄宿舍委員、日比、野村、坂本。

ホ、饗應委員。アレン、ベスト、橫澤。

ヘ、集會委員。加藤、他二三名。

ト、裝飾委員。フエリス女學校靑年會員。

○關西の市部靑年會委員及。職員が全責任を負ふ事を得ば、同地方にて一つ開催の事。

○次會を四月十四日開催、標語、宿泊料、會費、講師等につきて協議の事。

第二回委員會

○豫定の如く開催。出席者、星野、山田、加藤、橫澤、日比、ページ淺井、堀。

一、星野氏報告。

イ、フエリス女學校快諾、共立女學校よりは若しフエリスのブース氏承諾の節は寄宿舍を喜んで提供すとの事。同寄宿舍には三四十名を收容し得べしと。

ロ、ミスルーミス委員お斷り。

二、寄宿舍、食物、僕婢の事は全部橫濱在住の委員に一任する事。

三、標語ガラテヤ書六ノ二に決定す。「汝等互の勞を負へ、斯くして基督の法律を全うすべし」

四、會費金壹圓（一日二十錢 四日以上一圓）滯在費金八圓（一日金一圓）

五、聖書の組は八組設くる事。

六、講演者八名、講師八名依賴の事。

七、早天祈禱會委員として大呑久子、淺井治子の二氏を擧ぐ。

八、女子靑年會報告及協議に關する事をミスページに依賴す。

九、次會は五月七日午後三時より開催。

雜報

■スペンサー女史。明治十一年に來朝以來靑山女學院に教鞭を執られて我國女子教育、矯風慈善事業等に盡されし同女史は、四十三年の親しみ深き日本を去り歸米せら

る丶事となれり。三月廿九日女史の爲銀座敎會に於て送別會開かれ今は早や母となり祖母となれる女史の敎へ子達は昔學びし讃美歌を合唱し記念品贈呈記念撮影等ありしと。

■新婦人協會規約成る。大要左の如し。女子高等敎育、小學大學の男女共學、婦人參政權、婦人に不利な諸法制の改廢、母性保護等の實際運動婦人共同の利益に對する日本婦人總同盟の組織、講演會開催、婦人勞働者の學校を設置し婦人勞働新聞を發行し婦人勞働組合を組織すること、婦人職業紹介、結婚媒介、女子大學講座の開設、婦人會館の建設等。會費は正會員毎月五拾錢にて研究部のどの部かに屬すべきもの。(政治法律部、社會部、敎育部、衣食住部)

■社會事業講習會。澁澤男を副會長とする勞資協調會主催の同講習會は四月十二日より神田錦町私立工科學校内に男女二百人を講習員として開會、翌十三日より七月卅一日迄、四ケ月間の講習を繼續する事となれり。二百名の講習員中婦人は八名にて前女子高等師範敎授西島富壽氏、お茶の水高等女學校敎師吉村千鶴子氏、ウヰルミナ女學校の甘粕なべ子氏等も其中にありと。

■文化講座開催。四月十九日より六月廿六日迄毎夕六時より(土、日を除く)芝區三田四國町自由基督敎協會にて開催さる。學科及講師左の如し。

○最近政治史　法學博士　吉野作造
○政治及社會問題　「我等」主幹　大山郁夫　長谷川如是閑
○勞働問題　早稻田大學敎授　北澤新次郎
○經濟思想史　慶應大學敎授　高橋誠一郎
○英詩研究　陸軍大學敎授　岡田哲藏
○文明史　文學士　内ケ崎作三郎
○最近の創作批評　文學士　生田長江
○現時の宗敎思想　文學士　今岡信一郎
（敎科書 Wells, "God the Invisible King.")
○英國研究　早稻田大學敎授　會津常治
（敎科書 Daily Mail Year Book for 1920 及 British History)
○英語新聞研究　大倉高等商業敎授　西脇信雄
（敎科書 Japan Advertiser)
○American Life and Ideal　ジョン・デー
○講座費は一科目二圓五十錢、二科目四圓五十錢、三科目六圓五十

錢、三科目以上の聽講者は一科目を增す毎に金一圓五十錢を增す。聽講生は老若男女の區別なく且履歷を問はず規定の人員を超過せざる限りは何人にても聽講生たる事を得る由。

■女子醫專の昇格。 吉岡彌生女史の校長たる女子醫學專門學校は十二日文部大臣より無試驗開業の資格を有する指定學校とせられし由。

■高等看護婦會創設。 築地聖ルカ病院長トイスラー博士其他の計畫にて今秋より高等看護婦會同病院內に設けらるゝ由。其の目的は從來の我國看護婦界の陋習を打破し、地位を高むるにありて應募者の資格は高等女學校卒業生若しくはそれ以上の學力の者、(殊に京濱間のミッションスクール出身者を歡迎の由)年齡廿七歲迄。養成期間三ヶ年。月謝、被服費、小遣等全部支給せられ卒業後は何等の義務なし。募集人員五十名。申込締切六月末日の由。

■染物と織物のお取次ぎ。 京都基督敎靑年會の後援を目的とする贊助婦人會は地方の家庭に奉仕するため、染物と織物の取次ぎを初められし由、卽ち京都の信用ある店と特約し、新衣の染物は勿論、古衣の染更、帶地お召其他西陣織物の購求を望む人々の爲、懇切を旨として便宜を計らるゝとの事。注文の際の注意事項は、

一、年齡、趣向、目的を通知の事

一、染物には見本を添へるか、大體の通知にて後は同會に一任する事。

一、註文品出來の上は代金引換小包にて送らるゝ事。

■京濱婦人聯合新睦會。 四月廿四日橫濱市蓬萊町メソヂスト敎會にて、山田千代子女史司會の下に開催。同女史の獎勵及オリヴ、アイ、ハヂエス氏の御話ありし由。

■日基聯合婦人會。 四月廿四日富士見町敎會に於て開催。「聖書に於る婦人の奉仕」といふ題にて植村正久氏の講演、羽仁もと子川戸環氏の感話ありし由。

大阪基督教女子青年會 建築資金募集趣意書

我大阪の近頃目醒しい發達はたゞに時勢の進運によるのみでは御座いますまい、ながく培はれて參りました人ひとりひとりの力強き根ざしが、時に遇ひまして枝葉繁り百花美しく咲亂れた趣となつたので御座いませう。どうか徒らに花を喜ぶばかりでなく健全な實を結びまして限りなき幸福の味はれますやう、私共は衷心より願ふので御座います。

玆に萬國基督教女子青年會に加入致しまして、大阪基督教女子青年會を設け、世の青年婦人の爲教導の任に當り、又廣く婦人の修養場ともなり社交の途をも開き、世の爲人の爲奉仕の誠をつくしたいと存じ、大正七年の春創立以來一年餘り會員すでに二百餘名に達し、教育部宗教部社會部等の事業漸く其緒につき、前途に多くの望を持つ事が出來て參りました。猶種々の方面に我會の手をまつ事業も多いので御座いますが、如何にせん適當なる家屋なき爲、空しく過す場合多く甚だ遺憾に存じます。しかのみならず、一般婦人界に於ても、諸種の講演或は集會等の催されます事が多くなつて參りましたが、常に會場の得難い事が大なる妨となりまして、滿足なる效果を収められないのでございます。之等の爲にも進で會館を提供したいと存じます。加ふるに父母の膝下を離れ上阪して實業事務に從事する婦人は、年を逐ふて增加して參ります、此人々の爲にも寄宿舍を設け、暖かき保護を加へます事は、我會の大なる使命と信じます。今回會員の有志發起いたしまして、廣く有力なる各位の御同情に依り、會館と寄宿舍とを建設いたし、事業完成の目的に向つて進みたいと存じます。願はくは我大阪婦人界の爲、ひいては一般社會の爲私共の微衷を容れられ、御贊同の上奮つて御寄附あらん事を切に御願申上ます。

建築費豫算總額　金拾五萬圓也。

幹部　石神八重子　ハワード　星野須磨子
　　　善積君惠子　高安季子　中路ちか子
　　　ウキックレー　岡田榮子　松井蔦子

委員　荒木幸子　甘粕なべ子　淺井泰子
　　　坂部とみ子　齋藤よし子　庄司八重子

一 拂込方法　一時拂　月、年（三ヶ年）

一 申込所　大阪北區天滿橋筋一ノ九九（電、東、一八三三番）
女子青年會資金募集係

學生支部報告

○東洋英和女學校靑年會報告

自八年三月至九年二月

一、會計報告。入金四百九十二圓八十二錢

内譯

一、販賣部より　百三十七圓八十九錢
一、仕事部より　二百二十一圓六十八錢
一、上田保姆靑年會より　四十六圓
一、夏休に試みたるタラントマネー純益十一圓
一、教科書賣上純益　十八圓十六錢
一、本部及其他の寄附　十八圓〇五錢
一、會費及前年度繰越高　三十七圓十四錢

支出合計　四百五十二圓三十六錢

内譯

一、靑年會本部へ　二十八圓
一、傳道義會へ　十三圓
一、婦人ホームへ　六圓
一、支那傳道へ　十圓
一、負擔金　二圓八十錢
一、クリスマス寄附　百八十圓
一、赤十字へ　六圓八十四錢
一、修養會代員へ　五圓
一、講師御禮　五十四錢
一、日曜學校カード代　六圓六十四錢
一、百年紀念祝賀會へ　五圓
一、パレスタイン地方救濟　二十圓
一、女工親睦會　八圓九十六錢
一、社會部傳道部等入費として　五十二圓四十八錢

二、社會部報告。六月には例年の通り花トラクト等を持ちて病院を見舞ふ。其他誕生日會新入生歡迎會クリスマス祝賀會等をひらく。

三、販賣部　賣上高一千二百五十四圓四十錢五厘　純益百三十七圓八十九錢

四、仕事部。賣上高三百六十三圓九十三錢。純益百六十圓

五、集會部。校内矯風に關し或は宗教主義に基きたる集會を開催す。

過去一年間は當靑年會にとりて殊に神の御惠溢るゝばかりに下りし長き年なりしを感謝す即種々異なりたる出來事ありて當會の内部に又は財政に大に得る所ありたり。

一、七月には女子靑年會の夏期修養會が當校に於て開催されし事。
一、九月には上田保姆養成所靑年會が當靑年會に合併し多くの熱心なる會員を得し事。
一、クリスマスには例年に比して多くの寄附をなし、各入用に應ずるを得し事。
一、當校の日曜學校の爲にカード代だけ當會にて負擔する事。
一、新憲法を作りて益々會の發展を計りし事
一、三月には當校音樂部の主催にて音樂會を催し入場券等を販賣し純益を得し事。

以上いづれも神の御助力と本部の方々の深き御同情によるものと一同感謝に充てり。

大正九年度役員改選の結果左の如し。

會長澤田貞子　副會長兼矯風部長大貫起[illegible]
書記　井出朝子　會計　君塚茂子
傳道部長　波多野榮子　社會部長野本[illegible]江
販賣部長　猪俣あや子　仕事部長　八田三四

○横濱蒔田英和女學校靑年會

一年御報告致します。二月十八日役員委員の改選を致しました。

會長　鈴木かつ子　副會長　高橋しづ子
書記　藤本たけ子　會計　深澤[illegible]子
誘導部長　中尾アサ　集會部長　長島[illegible]子
社交部長　江原とめ　仕事部長　藤崎とみ
販賣部長　土方徹子

ひねもす鳥歌ふこゝ蒔田丘上に一本の野邊の草として世へ出でた幼きわが靑年會も天父の慈愛のみ手に育くまれてより健やかに生ひ立つて參りました。無論試練のみ手も様々と參りました。それにもかゝはらず徐々たる發展

の跡をこの過去一年間に印する事の出來ました事は偏に神の御加護と存じます。昨年の修養會に澤山の姉妹方を送る事の出來たのも感謝の一つでございます。それらの方々は皆十分なる靈の糧によみがへり希望にみちて歸校いたされました。そして第一に當會の諸集會を旺盛ならしめんと組織を稍々改めて多數の生徒を收攬する事に努めました。即月の内の或週間には名士を招き講演をきく事、仕事會を設ける事等を初め前者の目的は未信者を信仰に導き信者の心には新に信仰の火を燃やさん事にございました。之は相當なる結果を得て居ります。後者は少しなりとも神の爲に働き度いといふ心を現はさんがため又財政部の發達を助けんが爲であります。學生の心を忙殺する試驗の最中にも尙一室に心靜かに集ふて神の御爲とハタキを作り袋を張りて居る人々の樣を見ると云はう樣なき感慨に打たれるのでございます。尙日曜學校の兒童を集めんが爲にお伽噺會を開きその後百人を算する幼子を與へられました。過去一年間は販賣部の發展が殊に目覺しきものでした。學用品以外に此頃では午餐のパンを賣る事によつて販賣部員の年來の苦心が段々報ひられて參ります又寄宿に於る仕事部員は皆樣の衣服足袋敷布類を洗濯し或は着物を縫ひ等して盛んに働いて居ります。尙社交部員の作られた草花は數會のオーガンの上に或は病める人々の寢臺の傍に飾られて居ります。斯くて外部に於ける目醒しき發展は見られませんでしたけれども神の御導のまに〳〵み國のため、み榮のために今後の發展を祈り徐々ながら一校擧つて奮闘を續けて居ります。

○靜岡英和女學校靑年會

時下春暖の候　相成候所皆樣御壯健の御樣子賀し奉候當靑年會の會員も皆日々壯健にて神樣の爲め働き居候間御安心下され度候、今度役員の選舉致し候間御通知申上候

會長　加茂みえ　副會長兼書記　鈴木菊子

書記　鈴木千代　會計　長野うきえ

副會計　室賀えい　宗教部長　加藤政子

矯風部長　鈴木秀　社交部長　橋本はま

誘導部長　矢口みつ　仕事部長　竹内淸子

販賣部長　長谷川てる

○名古屋淸流女學校靑年會より

如何なる神の御旨ありてか三月限りに當地に於ける最初の花なりし長き歷史を有する本校は閉ぢられ申候。幾度か斷念いたし候へども住みなれし淸き美しき學校の閉鎖は夢か現のやうに感ぜられ候。然し神の深き御攝理のあることゝ信じて全ての者感謝いたし居候。長年私共の如き小さ影もなき支部にも皆樣の深厚なる御恩寵を戴き、細きローソクの光をも御導き下されしことと改めて御禮申上候。

此まゝ消え失するは實に殘念に候へども唯之よりは各自が神の御手に確くたよりて、供へられし方面に全力をつくさんと決心致居候何とぞ私共弱き者のために又學校のために日々の御祈の端に御加へ下され度願上候。今金子少かなれど御送り申上候間靑年會雜誌の未納分と殘りは御事業の一端に御使用下され度願上候。神の惠み殊に靑年會の上に豐かならんことを。先は御報知まで申上候。（三月二十五日）

雜誌購讀申込者

石原リヨウ　大塚津賀　柳原末子

藤本ますゑ　天津幸子　山田ヒサ

棚橋よす枝　ワイドナ　關口みち

木野せい子　三宅賤子　松尾喜代

勝田幸子　皆藤峯子　鷲谷鶴代

靑木千枝　降矢濱子　石田とし

平戸美代　河田良子　小林かね

尾原治子　淺川まち　西　禎子
今井米子　大山　敦　佐野小春
太田春子　金井みか　ミリケン
横濱市部　五十五名
東京市部　四十五名

本部會員に謹告

従來本部の會員を左の三部に分けてありました。

通常會員　一ヶ年會費壹圓五拾錢
維持會員　同　會費　參圓以上
特別會員　同　會費　拾圓以上

而していづれの部に屬さるゝ會員にも雜誌を御送り致して居りましたが誌代値上げと共に、今後通常會員の會費は其儘雜誌購讀料として頂戴する事と致しました。若し此會費を雜誌代としてでなく、特に本部の事業費として用ひられ度御希望の方は恐入ますが其趣を御通知下さい。又雜誌購讀と同時に事業をも御援助下さろうと思召さるゝ方は、此際何卒維持會員に御なり下さいます樣御願致します。

消　息

□ミスペーヂ　四月中旬、約二週間の豫定にて京都女子青年會援助の爲同地に赴かれたり
□酒井よし子氏　大阪にて柴田氏と結婚せられし由。
□鈴木とみえ氏（東京市部幹事）母君御病氣のため郷里北海道に向はる。
□寺田初代氏　四月上旬夫君と共に米國より歸朝せられたり。
□藤きよの氏　四月より六月迄本部の事務を援助せらるゝ事となれり。
□ミスカツト　本部幹事として五月中旬米國より御來朝の由。
□森田松榮氏　春の休暇中那須温泉に旅行せられ其所にて御發病。過日歸京せられしも尚御靜養中の由。御全快を祈る。
□大呑久子氏（神戸青年會幹事）春の休暇を利用し御上京二三日滯在せられし由。
□中村艶子氏　亡き父君の七回忌の爲京都より郷里岡山に歸省、四月中滯留せられし由。
□横澤つぎ子氏　春の休暇中數日を大磯に靜養せられし由。
□日比忠子氏　同上。

摘要

△本誌代金は總て前金にて御拂込被下度、前金切れの捺印有之候節は直に御拂込被下度候
△御送金は振替にて拂込まるゝ方便利にて且間違も無之候、但手數料壹錢を御加へ下され度候。
△振替、東京、貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共

	内地	海外
一部	金十五錢	金拾七錢
一年前金	壹圓五十錢	金壹圓八拾錢

廣告料

一回掲載	
一行 金五拾錢	四分一頁 金五圓
半頁 九圓	全頁 金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正九年四月廿八日印刷納本
大正九年五月一日發行

發行所　牛込區市ケ谷田町三ノ十二
日本基督教女子青年會
電話番町四五六三番
振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　牛込區市ケ谷田町三ノ十二　河井道子
印刷人　芝區[illegible]和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　右同　三成舍

standard for later club organizations of which they in turn shall becomc leaders. This 'Leaders Club' gives promise of some splendid volunteer workers for Tokyo in a short time.

OSAKA ASSOCIATION

Osaka faces two important changes in its staff of Japanese secretaries' Yamaguchi San, who has had charge of the educational work, left the Association April 1, as she is soon to be married. She expeots to make her home in Osaka, and we are glad that we need not say a real goodbye. Yamamoto San, our general secretary, leaves soon for two years in America—one year at National Training School in New York, and one in Association work afterward. These vacant places are not yet filled, though there have been some hopes of a new educational director. Naito San, a graduate of Poole Jo Gakko, is giving some supplementary help at present.

In spite of the late start in plans for Rainbow Club work, due to the winter delay from influenza, a beginning has been made. Several volunteers from the mission school graduating classes were secured and are planning their work of leadership for groups of younger girls. Miyajima San, a Kobe College graduate now teaching in Osaka, is leading this effort. The Easter Sunday service was plannced with reference to the younger-girl movement. Yamamoto San led the service and the Rainbow Club which was started a year or two ago gave special music.

The April Board meeting had a continuation session the following week at Sumiyoshi and definitely decided to give the Association Pageant the last of May, Miss Hard being responsible for the program and several Board members taking the work of advertising and business management. Several groups of girls are already promised as helpers, also a number of women who can help with the needed training. Realizing fully the difficulties to be overcome' Osaka hopes to find, as Tokyo and Yokohama have done, the great gain to the Association in giving the pageant, in interesting new people and winning them as permanent friends in the abundant life.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KWAI)

Volume 17 **May 1920** **Number 5.**

TOKYO ASSOCIATION

The Annual Meeting of the Tokyo Association will be held on Saturday, May 8th, at two o'clock.

The Tokyo Staff is happy to welcome this month two new Secretaries, Miss Okazaki for Student work and Miss Sakai Educational Secretary. Miss Okazaki is a graduate of Aoyama Jo Gakuin and comes to us from five years of teaching in Eiwa Jo Gakko of Kofu. Miss Sakai is a graduate of Miss Tsuda's School and since then has been in office work. We feel that both will have splendid contributions to make to the Tokyo work.

The usual activities of the month have been somewhat broken into by the spring vacation during which classes were closed tho' club work with non-student girls went on as usual. Classes reopened on the 12th with an unusually well-attended opening meeting on Saturday the 10th addressed by Okazaki San the new Student Secretary. A new departure in Educational work is being tried, in the nature of a morning English class for Japanese house-wives who find that hour more convenient than the usual afternoon and evening hours.

The English Speaking Society met on the evening of the 15th to listen to a most interesting talk by Mrs. Morrison on her experiences in France as Captain of a Company of English women soldiers, the famous 'Waacs'. Because the meeting occurred during Cherry Season the committee very successfully turned the evening into a flower evening, with cherry blossoms for decorations and real flowers for conversation-period tokens. This society plans always to meet on the evening of the third Thursday of the month and cordially invites both Japanese and Foreign friends of the Association to attend it's meetings. And may we add that the attenddance of our Foreign friends is very necessary to the success ot the meeting from the point of view of the practise in English conversation obtained by the Japanese women and girls attending.

The girls who have made up the class in Leader's Training Course for the last eight weeks have now organised into a 'Leaders Club' under the guidance of Miss Carolyn Allen in order that they may continue their preparation for leadership by actual experience as members of a club which shall form a

来る五月十日開講の通信大學

文化生活研究

■新時代が我國で今日求め得る、新進の最高權威二十七大家を通して與ふる絶好機會

「文化生活研究」を必要すべき人は

舊い囚はれた生活を改善して新時代に適應する文化生活を樂まんとする進歩的な一般の紳士、淑女。

所謂嫁入準備時代中にある高等女學校卒業程度の若き婦人。

健全にして樂しき家庭を作り現代の主婦たる大任を全うせんと努むる婦人

研究心に富みながら種々の事情の爲規則正しき高等の學校教育を受けること出來ざる篤志家。

主幹 ドクトル(經濟學)法學博士 森本厚吉・顧問 法學博士 吉野作造 有島武郎

□學科目及擔當講師□

學科目	肩書	講師
家庭生活と宗教	帝大教授文學博士	姉崎正治
生活と文學		有島武郎
家庭と美術		有島生馬
家庭細菌	帝大教授農學博士	半澤洵
家庭園藝	帝大教授農學博士	星野勇三
婚姻問題	帝大教授法學博士	穗積重遠
育兒法	女子大學家政部長	井上秀子
社會病理		賀川豐彦
家庭生活と財政問題	帝大教授法學博士	紳戸正雄
家庭制度	帝大教授法學博士	河田嗣郎
中産階級者生活問題	帝大教授法學博士	河津暹
家庭教育	早大教授	木村久一
家庭物理	女子高等師範教授	近藤耕藏
家庭生物	帝大教授農學博士	松村松年
國民生活改善問題	文學博士	三宅雄二郎
經濟論、生活の標準	帝大教授法學博士	森本厚吉
家庭經營		森本靜子
食物榮養論、家庭衞生	帝大教授醫學博士	永井潜
食物經濟論	榮養研究所長醫學博士	佐伯矩
住宅論	帝大教授工學博士	佐野利器
小兒衞生	帝大教授醫學博士	佐藤彰
生計費統計論	法學博士	高野岩三郎
家庭と音樂	理學士	田邊尚雄
家庭料理	女子大學教授	手塚かね子
都市生活論	帝大教授法學博士	渡邊鐵藏
婦人の自修自學		與謝野晶子
政治に及ぼす婦人の力	帝大教授法學博士	吉野作造

本「研究」は社會改造又は生活改善を叫んで止まない新時代の要求に迫られて生れ出たもので此方面に於ける本邦唯一の大學教育普及事業であります。授業學科目は文化生活を營むに是非心得て居なければならぬものでありますが多くは新しい科學又は研究で未だ他に公にされてないものであります。毎月一回約三百頁の立派な書册として出版します、全部完結した時には各科目別に美しく裝幀しまして約三千六百頁の一大叢書が出來ます。本會の趣旨を贊成して下さる名士は非常に多くありますが、能く普通に見る有名無實の顧問、贊助員、講師等を以て飾るやうなことをして社會を欺くことは一切致しません。其代り名前を出した人は全部責任を以て夫々其任務を盡されるのであります。

■會員募集■

東京京橋尾張町 振替五壹五五壹番 警醒社書店内

文化生活研究會

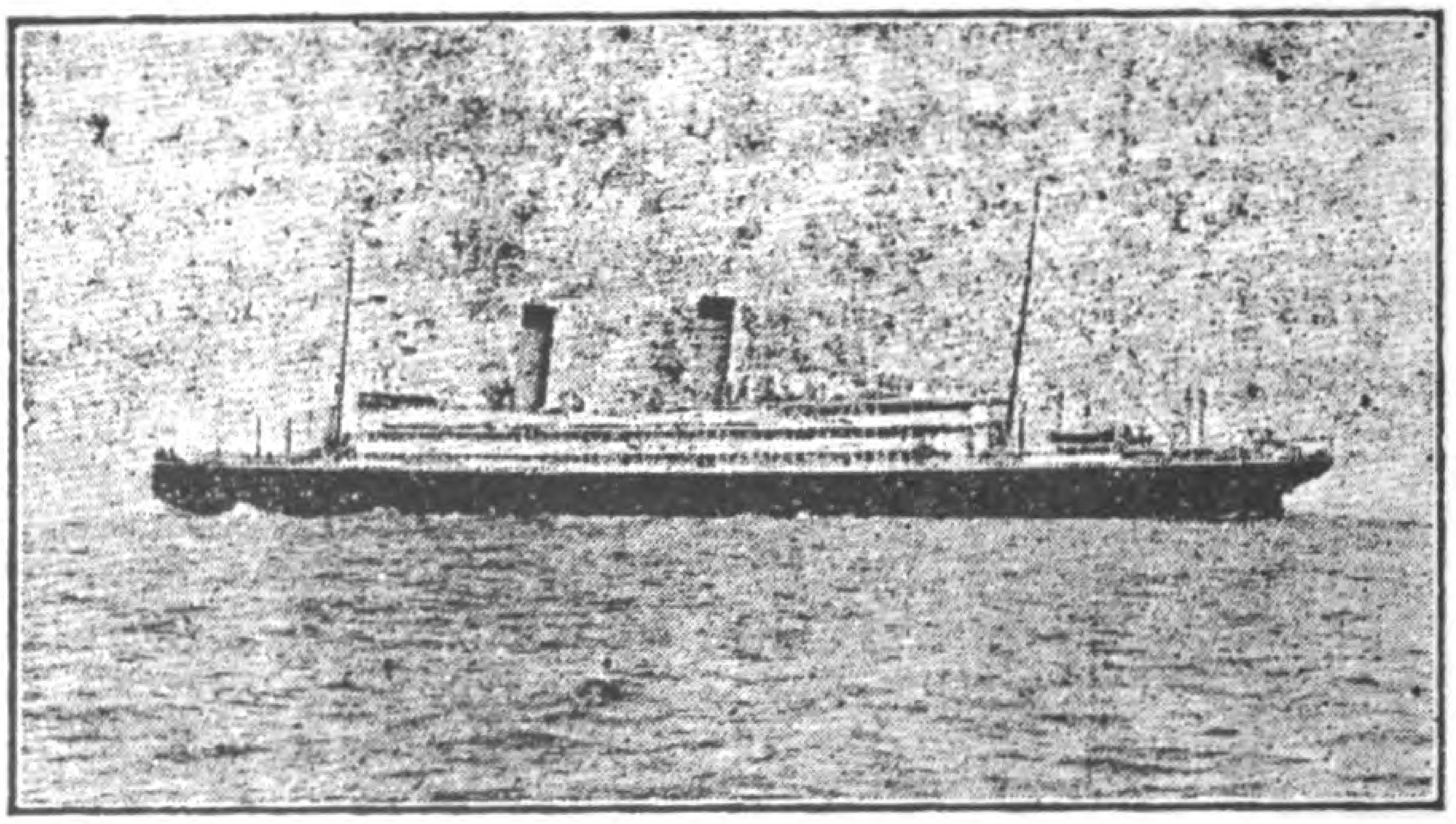
體裁 四六判約三百頁 紙質裝幀善美

會費 一ケ年分拾五圓六拾錢 六ケ月分八圓五拾錢 一ケ月分壹圓五拾錢

入會金即時申込者に限り金五拾錢

研究要覽 無代進呈

東洋汽船株式會社



本社 東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話丸ノ内 一五三〇、一五三一、一五三二、一五三三番）

營業所 橫濱市山下町五番（電話本局 四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所（神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング。上海四川路ノース、チヤイナ、インシユランス、ビルヂング。マニラ、チヤコビルヂング。桑港、マーケット街六二五、マーチヤンツ、ナショナル、バンク、ビルヂング。紐育、ブロードウヱイ、一一六五。ホノルヽ、アレキサンダー、ヤング、ビルヂング。）

北米航路（桑港、布哇ホノルヽ、横濱、神戸、長崎、上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
波斯丸		同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、布哇、桑港、羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

女子青年界第拾七巻第五號（毎月一回一日發行）
大正九年四月廿六日印刷納本　大正九年五月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可